

府中市民の 生命と財産を守る!



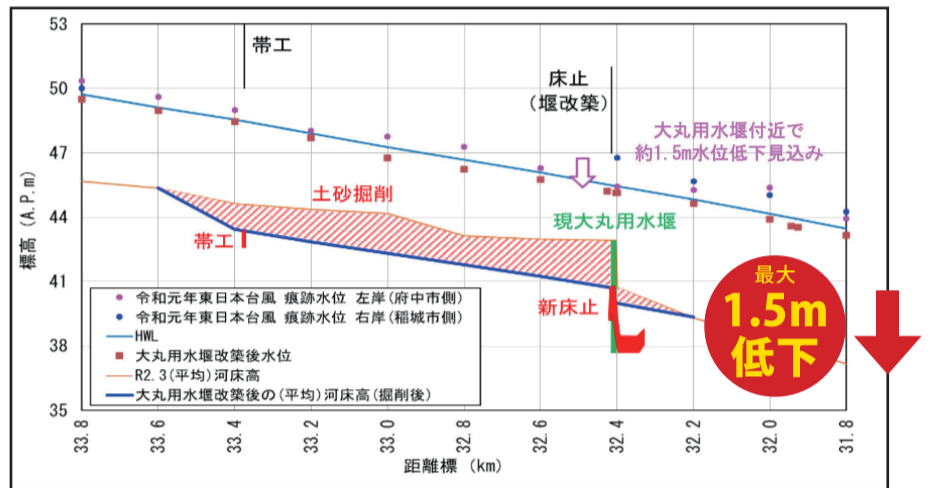
～永年の懸案であった大丸用水堰撤去へ いよいよ動き出す～



長島代議士が鈴木前都議と共に、大丸用水堰の現地視察を行う。改めて、堰の撤去の必要性を認識。



長島代議士が高野市長と共に、御法川国土交通副大臣(河川担当・当時)に要望を行う。



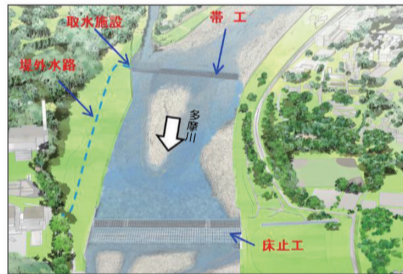
現場を視察、地域の皆様のご要望をお聴きし、国土交通省へ要望! 撤去計画を前倒しへ!

●改築の主な内容

堰を撤去後、床止め工の設置と河道断面の切り下げを行います。また、改築後でも取水できるよう、取水施設と堤外水路を設置します。



現在の大丸用水堰



大丸用水堰改築のイメージ

●令和元年台風19号において、大丸用水堰付近で計画水位を右岸側(稲城市)で約1.35m超過、左岸側(府中市)で約0.6m超過



出水前



出水時

※図表・写真はすべて国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所作成の資料より抜粋

大丸用水堰は江戸時代に多摩川から農業用水を引き込むために設置されました。今でいうと、郷土の森の先の河川敷B.B.Q場に面した場所にあります。昭和35年にコンクリート化され強固になった一方、堰を原因とする氾濫の危険性が度々指摘され、地元住民を中心に幾度となく対策を国に求めてきました。

令和元年9月の台風19号では府中市政始まって以来、全人口の約35%を占める9万人以上の市民の皆様に避難勧告が出されたことは記憶に新しいところです。

多摩川漁業協同組合、大丸用水の水利権関係者の皆様のご理解を頂きながら、当時都議会議員だった鈴木錦治さんが平成28年に撤去の要望を地元意向としてとりまとめ、各地元自治会や地元民間企業の皆様とともに、最終的に令和元年、高野茂久府中用水組合長以下代表者一同が署名し、要望書と一緒に国へ提出しました。

令和2年、長島代議士が高野茂久組合長、鈴木錦治前都議会議員と面談、本改修工事の重要性の説明を受け、直後に高野律雄府中市長とともに国土交通省に乗り込み、御法川信英副大臣(当時)に直談判、当初5か年で計画されていた本工事を3か年に前倒して実施する確約を取り付け、永年に亘る要望がようやく実現することとなりました。

今回の撤去工事により、現状よりも最大1.5mも水位が下がり、多摩川氾濫のリスクが大幅に軽減されることが期待できます。これにより、市民の皆様が台風のたびに眠れぬ夜を過ごす心配もなくなります。

これからも、地元の長島代議士を先頭に、高野市長、鈴木前都議はじめ地元の皆様と緊密な連携を図り、府中市民の命と財産を守っていくことを誓い合いました。

府中の子どもたちを守り抜く!

コロナ禍で苦しむ子どもと子育て家庭を救うため、国の「子どもの見守り事業」の予算を倍増。

多くの子どもたちや地域の皆様の拠り所となっている「こども食堂」などが感染対策のため、従来のように開催できない状況です。その中で、困窮している家庭や虐待などのリスクを抱える家庭の孤立がますます深まっています。様々な地域の見守り事業を通じて、悲惨な事件が起きないように未然に防いでいくことが一番重要です。

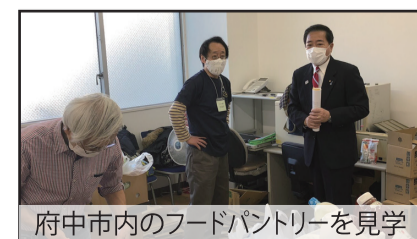
そこで、食材を直接家庭に届ける「こども宅食」が注目されています。自民党内では、「こども宅食推進議員連盟」が昨年発足し、長島代議士は事務局長に就任しました。同議連では、厚生労働大臣への要望など政府に



田村厚労大臣に要望書を提出

働きかけを強め、国の「子どもの見守り事業」の予算を倍増させ、また国の備蓄米を子ども支援事業で使用できるようにしました。

さらに、ひとり親世帯をはじめとする、経済的に困窮している子育て世代への特別給付金の実現に向けても、同志議員と共に動き、実現することができました。



府中市内のフードパントリーを見学

地元府中市内の子ども食堂・フードパントリーへの支援、そしてこども宅食の導入に向け、府中市、市議会議員の皆様と協力をしながら、これからも子育て世帯へのサポートを強化してまいります。